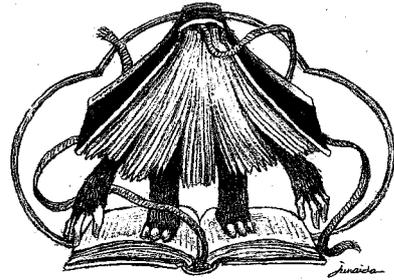


朝日 俳壇



＜日曜日のプローチ 40＞ junaida

命は満ちて
 (名古屋市) 磯前 睦子

接交業と
 (札幌市) 田巻 成男

遊牧の民の織りたる絨毯に花・蝶・虫・鳥
 (札幌市) 田巻 成男

客側に一から十まで操作させなせだか名乗る
 (宇治市) 小堀 裕子

ッチンに貼る
 (宇治市) 小堀 裕子

娘ほどの年の師匠に習う書を持ち帰りはキ
 (宇治市) 小堀 裕子

【評】1首目、国民自分たちを嘆く。塚本ゆくピアノの本人歌取

朝起きて隣の人が死んでいたそれだけ語りし
 祖父のシベリア
 (横浜市) 出井美恵子

元日に十日遅れて初詣シャッター街の参道を
 行く
 (東京都) 佐藤 仁志

八分と十九秒前太陽を出でし光にぬくもる老
 猫
 (神戸市) 松本 淳一

【評】清水さん、二宏は五二〇の靴をスタたらししたキャストで

忘れられぬにまみれたシャベルにはきちんと
 書かれたごももの名前
 (横浜市) 桜田 幸子

ゴミ箱にストンと入るゴミがある俺は嫌だな
 素直なゴミは
 (江別市) 長橋 敦

どのように泳げばいいか分からない年をとっ
 ても私らしくて
 (奈良市) 浦城 亮祐

【評】一首目、雪の二首目、夫の嫁子が何目、書かれた子供の名

彼氏とは週一ペースで会ってますサークルみ
 たいな頻度でいいね
 (流山市) 汐入 音佳

水かきの足を跳ね上げ羽ばたいて堰を越えゆ
 く冬の水鳥
 (八尾市) 水野 一也

今のわたしを知らぬわたしが笑ってるむかし
 のビデオ何かせつない
 (枚方市) 金光 久子

【評】第一首、十五

小林貴子選

米三合受けてたたずむ寒念仏
 (三重県明和町) 西出 泥舟

スキーするかと思ふ杖使ふ方
 (東京都新宿区) 針谷 純子

西半球東半球鬼打豆
 (塩尻市) 田原 章弘

がさごそとポテトチップス冬の夜
 (東京都新宿区) 各務 雅憲

春立つや円にはなれぬ多角形
 (浜松市) 川口八重子

てっぴりや夫婦の会話盛り上がり
 (京都府大山崎町) 重田 和子

霜柱あはら折る音響きけり
 (矢板市) 菊地 壽一

満洲事変の年に生まれて着ぶくれる
 (松本市) 宮崎満佐恵

丸餅が海老若とくる味噌雑煮
 (京都市) 山河 重弥

乾鮭を叩きて焙る手間染し
 (福岡県鞍手町) 松野 賢珠

【評】一句目、寒中に修行をする僧が、米三合の喜捨を受けた場面。二句目、二本のストックはかつてスキーのものだった。今は町なかで。三句目、西半球・東半球という概念が昨今身近になった。四句目、「がさごそ」だけなのに美味しそう。

長谷川耀選

戦争をひとつふたつと手毬唄
 (久留米市) 塚本 恭子

雪国の天の花なれ大日輪
 (長野市) 縣 展子

天に放屁地に放尿の老の春
 (大野城市) 野分 のわ

ランナーの体をめぐる風花よ
 (多摩市) 安達 晶子

みちのくに立つあらがねの寒さかな
 (横浜市) 三玉 一郎

金星も月も暈きて白魚波び
 (津市) 中山 道治

雪女郎恋熱ければ溶けにけり
 (柏市) 藤嶋 務

冬の海元気に潜る鵜が一羽
 (新宮市) 中西 洋

先生のセーター手編み皆気付く
 (いわき市) 吉田 恵

米國にトランプのある寒さかな
 (東京都世田谷区) 野上 卓

【評】一席。数えるほど、あちこちで戦争が。恐るべき現代の手毬唄。二席。雪上に輝く太陽。まさに「花」。三席。何と大らかな生き物、人間。晴れ晴れと「老の春」。十句目。欲を恥と気づかないところが寒い。この星に、と言ってもいい。

大串 章選

生も死も空に溶けゆく日向ぼて
 (越谷市) 新井高四郎

図書館へ寝に来る人の冬帽子
 (入間市) 西村 幸一

ここだけの話飛び交ふおでん酒
 (今治市) 横田青天子

重力と釣りあふ浮力浮寝鳥
 (大野城市) 野分 のわ

空腹の熊を宥めて山眠る
 (敦賀市) 山田美千代

虫たちの命宿して枯野かな
 (横須賀市) 青木 香文

雪達磨首傾げたる選挙かな
 (朝倉市) 深町 明

初旅の朝風臣一人湯の香瀟々
 (いわき市) 岡田 木花

亡き父の背中のごとし雪の臺
 (藤沢市) 安井 海

介護士の寒夜の声を聴き分ける
 (神奈川県寒川町) 石原美枝子

【評】第1句。「空に溶けゆく」が言い得て妙。いつしか生死のことなど忘れて日向ぼて。第2句。「寝に来る人」と言い切ったところがおもしろい。俳諧味あり。第3句。「ここだけの話」が「飛び交ふ」とは！ざっくばらんに語り合う人たち。

高山れおな選

雪女我住む階のボタン押す
 (横浜市) 座間 敏正

兵卒の父は二十歳の大雪原
 (三重県明和町) 西出 泥舟

山火事を消せぬ人類核を持つ
 (日光市) 土屋 恵子

雪女みほとは熱いかもしれぬ
 (熊谷市) 松葉 哲也

鯨鯨死後の有る派と無い派とが
 (大垣市) 大井 公夫

地球ゆゆちかちか戦争争め
 (栃木県高根沢町) 大塚 好雄

あんパンに焼き立ての礼春隣
 (臼杵市) 村上 玲子

山茶花や最近走っているばかり
 (成田市) かとうゆみ

夕日浴びラガーの墓に立つラガー
 (横浜市) 飯島 幹也

山眠る工房に貼る火伏札
 (加古川市) 森木 史子

【評】座間さん。雪女の句が多く、面白い句もいろいろ。中でこれは怖さ一番。

うたをよむ わたしの汀子俳句

朝日俳壇の選者を約40年も務めていた
 だいた稲畑汀子さんが亡くなって、2月
 27日で4年になる。死後、5398句
 を収めた「稲畑汀子 俳句集成」を刊行
 した。出版は、俳句結社「ホトトギス」
 の若手俳人で作る「野分合」と共催で、
 2023年から25年まで、12回にわたって
 「わたしの汀子俳句」という人気投票
 をインターネット上で実施した。
 稲畑さんと縁が深い俳人がホストとな
 り、ゲストたちと汀子俳句を鑑賞。テ

マごとに50〜70句を提示し、視聴者が好
 きな句に投票する方式。毎回150人か
 ら200人の汀子ファンが参加した。各
 テーマで1位だった句を紹介したい。

「音」というテーマでは「蛇穴を出て
 靴の音風の音」。「食」は「白魚の命の
 透けて水動く」。「月」は「月かげにみ
 な美しき庭のもの」。「山」は「一山の
 花の散り込む谷と聞く」。「庭」は「三
 極の花三三が九三三が九」。「青」は
 「長男と競ひ泳ぎて負くまじく」。「人

「色」というテーマでは2句が同点1
 位だった。「赤ばかり咲いて淋しき牡丹
 かな」。「日の接影の桜も吉野山」

「雨」は3句が同点1位。「水泳のは
 じまる日より雨ばかり」。「時雨れても時
 雨れども旅果てざるは」。「雨止んで風新
 涼に入れ替る」

「感情」「新しさ」の部門で1位だ
 ったのは、朝日俳壇・虚子選のこの句。
 「今日何も彼もなにもかも春らしく」
 (俳壇担当 西菱也)

第26回現代俳句大賞 現代俳句協会主催。
 大阪府の俳人・坪内稔典さん(81)に決まっ
 た。ウィットに富み平易な新しい俳句によっ
 て、現代俳句の地平を大きく広げたのが受賞
 理由。若い世代の俳句や評論を発表する拠点
 として「現代俳句」「船団」などを組織し、
 新しい才能を育てた功績や、近代俳句史研究
 で多くの論考を発表した点も評価された。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録
 し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発
 表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があり
 ます。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横
 に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661